

令和7年10月28日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 栗 栖 陽 介

研 修 報 告 書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 文教厚生常任委員会道内視察
- 2 視察先 北見市立西小学校（北見市教育委員会）
- 3 視察日 令和7年10月8日（水）
- 4 視察事項 ICT教育の取り組み及びGIGAスクールについて
- 5 成果

この視察先は道東地域では進んだGIGAスクールの取り組みをしているということで、視察先になったところであります。

始めに市教委職員から、大合併についての説明も交えながら、GIGAスクール構想に至った経緯を説明していただきました。

2020年から始めたGIGAスクール構想は、力を入れ続けた結果、2023年には国内では先進的な自治体と言われるような形になったそうです。



堀田校長より学校概要の説明を受けました

授業参観をさせていただきましたが、低学年の生徒からパソコンを使いこなしていき、高学年の生徒は我々が驚くほどの文章の打ち込みが速かったです。

また、高学年では脱ロイロノートに向け、課金をせずにCanvaを使い授業を受けていました。

教職員の連絡を取り合うツールは、アプリを使用しGoogleチャット等で校務DXを使いこなしていました。

道内で一番財政が厳しいと言われている北見市でしたが、ICT教育に関しては先進的でしたので驚きました。

いずれ中標津町内の小学校の視察をする際の参考にしたいと思います。

- 2 視察先 大雪かみかわヌクモ（上川町）
- 3 視察日 令和7年10月9日（木）
- 4 視察事項 未来型公民館について
- 5 成果

この視察先は子育て支援・移住者支援の施設運営や取り組みについて人口が少ない町として活発に活動されているということで視察先になったところであります。

「ヌクモ」は子どもが遊ぶスペースと保護者がくつろぎながら子どもを見ることができるカフェスペースがあり、安心して親子で楽しめる施設でした。

元、小学校の体育館を改築して作ったそうです。

施設の管理は、「合同会社たけっちょラボ」が運営し、代表も移住者でした。

開始から1年半の運営で、他地域からの利用者も含め、毎月1000人以上の利用があるそうです。



明るく素敵な施設でした

敢えて注意書きを減らす事により、怪我や事故はいまだ0件であるということで、子どもたち自ら、考えて遊ぶ習慣になっていて考える力、危機管理・危険予知能力も育つ仕組みになっていました。

同じ施設内には「カミカワークプロジェクト」という、地域おこし協力隊員の創業支援の場となっていました。

そこでは菓子製造ができ、オリジナルコーヒーを開発し創業した隊員もいるそうです。

未来型公民館を目指し、感動人口を増やすという目的に合った施設であると感じました。

上川町としては、役場職員の数が足りないということで、スーツではなく、カジュアルな服装で仕事をしたり、創意工夫に努力されていました。中標津町も取り入れるべきと感じました。

今までとは違うことをやるには必ず反対者はいるもので、それでもやらない自治体が、たいして何も変わらない自治体ということを感じさせられました。

- 2 視察先 富良野市役所
- 3 視察日 令和7年10月9日（木）
- 4 視察事項 ごみ資源化の取り組みについて
- 5 成果

富良野市は、ごみの分別に関して、「分ければ資源、混ぜればゴミ」という考えで、素晴らしい取り組みをしているということで視察先に選ばれました。

令和6年度では、リサイクル率は90%という素晴らしい結果をだしていました。

塩化ビニールを減らす「塩ダイエット」をすることで、ダイオキシンを減らし、ごみから作られた製品の「固形燃料」は、販売され利益を出していました。

ごみ分別ガイドブックは、1冊の冊子で誰でもわかりやすい内容になっていました。

様々な取り組みを説明していただき、感心させられる場面が多々ありました。

中標津町でも、是非とも取り入れるべきと感じました。



高橋課長からわかりやすい説明を受けました

- 2 視察先 置戸町役場
- 3 視察日 令和7年10月10日（金）
- 4 視察事項 子ども・子育て支援について
- 5 成果

置戸町は、福祉に手厚い町ということで視察先に選定されました。

子どもが生まれたら、木製の食器セットをプレゼントしたり、紙おむつを3年分配布したり、自治体全体の取り組みに温かみを感じました。

特に「5歳児検診」の置戸町の取り組みは先進的で、説明を受けた後は以前よりも増して、中標津町でも取り組むべきと感じました。

「置戸町元気だすべし事業」については、起業すると100万円、工房を設立すると100万円、移住しマイホームを建てると100万円、単身移住で50万円という、太っ腹な事業がありました。

「ふるさと少年クラブ」「ふるさと教育・おけと学」については、小中一貫教育で、自治体が運営する「フリースクール」のようでした。私が子供なら通いたいと思うような学校運営でした。

置戸町が目指す子ども像として、9年間の教育活動を通して「自他の良さに気付き、認め合う」「自ら学び、進んで実行する」「ふるさとを愛し、誇りに思う」こういった15歳



多くの職員の方に説明いただきました

になるような教育をしているとのこと。まさに生きる力が育つ教育でした。
中標津町でも、こういった教育をすると不登校生も減るのだろうと感じました。